

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2007年3月)

発表日 2007年4月9日(月)

～2月の反動もあり、やや低下。1-3月期でみれば消費は好調か～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL : 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)				
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	
06年	4	54.6	53.1	54.7	64.4	55.0	54.8	53.5	59.1	50.6	48.1	52.9	61.8
	5	51.5	50.6	50.6	59.6	53.8	53.6	52.0	58.4	48.2	45.9	49.9	59.4
	6	49.1	47.3	50.1	58.2	51.8	51.3	50.7	57.4	46.3	43.5	48.7	59.3
	7	48.4	46.5	50.1	57.2	49.8	49.0	48.8	57.0	45.2	42.3	48.1	57.8
	8	50.2	49.1	49.1	59.8	51.5	51.0	49.9	58.4	47.3	45.3	47.6	59.4
	9	51.0	49.2	51.2	61.2	52.8	52.5	51.2	58.0	47.6	44.8	49.9	60.9
	10	50.8	49.1	51.2	60.6	52.5	51.9	51.3	59.3	47.8	44.9	50.4	61.2
	11	48.9	47.5	49.6	56.0	49.7	49.3	48.1	56.2	46.4	43.3	49.7	59.0
	12	48.9	47.6	50.2	54.5	48.9	47.9	49.8	53.3	46.4	43.7	50.1	56.0
07年	1	47.2	45.7	47.3	56.3	50.9	50.6	49.8	55.1	44.4	41.3	47.1	58.3
	2	49.2	47.9	49.8	55.9	52.1	52.3	49.6	55.9	46.8	44.1	49.8	57.4
	3	50.8	49.9	50.9	56.3	51.3	51.6	47.9	56.6	47.8	45.2	50.1	59.2

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の現状判断(方向性)								
	DI				前月差				
	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連			
06年	4	51.9	50.2	51.6	62.0	-2.3	-2.4	-3.1	-1.9
	5	50.6	49.4	49.7	60.7	-1.3	-0.8	-2.0	-1.2
	6	48.8	46.9	49.9	59.0	-1.7	-2.5	0.2	-1.7
	7	47.4	46.2	48.9	57.1	-1.4	-0.6	-1.0	-1.9
	8	50.0	49.0	49.1	58.4	2.6	2.8	0.2	1.3
	9	51.3	50.0	50.8	58.5	1.3	1.0	1.7	0.1
	10	52.0	51.0	51.5	59.1	0.8	1.0	0.7	0.6
	11	50.5	49.3	51.0	57.9	-1.5	-1.7	-0.5	-1.2
	12	50.9	49.0	52.4	57.4	0.4	-0.3	1.4	-0.4
07年	1	49.3	47.4	51.0	57.5	-1.6	-1.6	-1.4	0.1
	2	49.8	48.4	50.4	57.0	0.5	1.0	-0.6	-0.5
	3	48.1	46.9	48.5	55.2	-1.7	-1.5	-2.0	-1.9

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

## ○ 季節調整値でみれば2月から悪化

3月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DI(方向性)が50.8と前月から1.6ポイント改善し、5ヵ月ぶりに「景気の中立」を示す50を上回った。内訳をみても、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連とも前月を上回った。

もともと、景気ウォッチャー調査は3月に上昇しやすいという季節性を持つため、これをそのまま受け取るとは好ましくない。そこで季節調整をかけてみた場合には、現状判断DIは全体で48.1(2月49.8)、家計動向関連で46.9(2月48.4)、企業動向関連で48.5(2月50.4)、雇用関連で55.2(2月57.0)とそれぞれ前月から悪化している。前年差でも軒並み悪化しており、全体的にやや弱めの結果といえそうだ。

## ○ 春物衣料の動きが鈍る。1-3月期では増加

3月の消費動向をいち早く把握するという観点から注目されていた家計動向関連(季節調整値)は、2月

が強かった反動もあって低下した。2月は暖冬の影響で春物衣料の売れ行きが伸びたことがプラスに寄与したが、3月は中旬に気温が低下したことで春物衣料の動きが再度鈍ったようだ。

こうした結果から判断すれば、3月の個人消費関連統計は2月と比べて若干悪化する可能性が高そうだ。もっとも、1、2月が好調だったことから、1-3月期でみれば10-12月期からはっきり改善する形になると思われる。内閣府（経済財政分析担当）で試算している消費総合指数でも1-2月平均の値が10-12月期を+1.1%上回っており、3月に多少悪化したとしても1-3月期でプラスになることは間違いない。1-3月期のGDPは個人消費によって押し上げられる可能性が高いだろう。

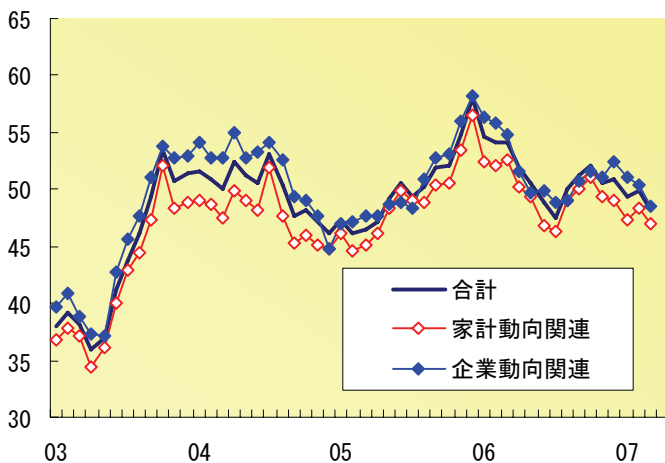
個人消費は昨年夏場に天候不順の影響で落ち込んだ後、秋にはその反動による上昇がみられた他、暖冬による年末の消費押し下げ（冬物衣料の売れ行き不振）や年明け以降の押し上げ（春物衣料の好調）等、攪乱要因に事欠かず、基調を見極めることが非常に難しい状況にある。前述の通り1-3月期については好調だった個人消費だが、所得の伸びが限定的なことや、先行き判断DIが悪化していること等の懸念材料も多く、力強さが出てきたと判断するにはまだ早いだろう。4月以降、1-3月期の反動減が出ないかどうか等を確認していくことが重要になってくる。個人消費は、振れを伴いつつも基調としては所得の伸びに見合った程度の緩やかな回復を続けていると現時点では判断したい。

### ○ 企業部門は悪化続く

企業動向関連は季節調整値で48.5（2月50.4）と悪化した。これで3ヵ月連続の悪化となり、企業部門の回復モメンタムが鈍っていることが示された。先日公表された景気動向指数では1、2月と2ヵ月連続でDI一致指数が50%を割り込んだが、そうした動きとも整合的だ。景気ウォッチャー調査（企業動向関連）は鉱工業生産に3ヵ月程度先行する傾向があるのだが、その関係からすれば、少なくとも前半は生産の鈍化が続くことが示唆されている。

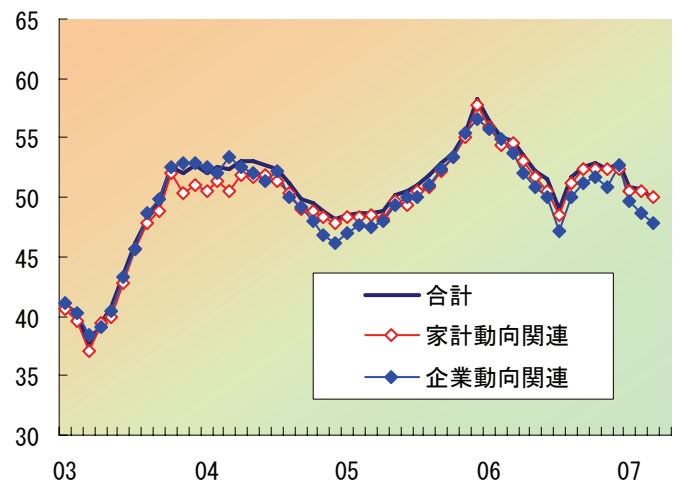
その他、雇用関連（季節調整値）は55.2（2月57.0）となった。引き続き好不調の判断の分かれ目である50を大きく超えており、雇用の逼迫が示されている。ウォッチャーのコメントも人手不足を強調するものが多い。ただし、前月差でみると雇用関連DIはここ数ヶ月間悪化している。雇用環境は良好という判断を変える必要はないが、若干気になる動きではある。

景気の現状判断DI（方向性、季調値）



（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の先行き判断DI（方向性、季調値）



（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」